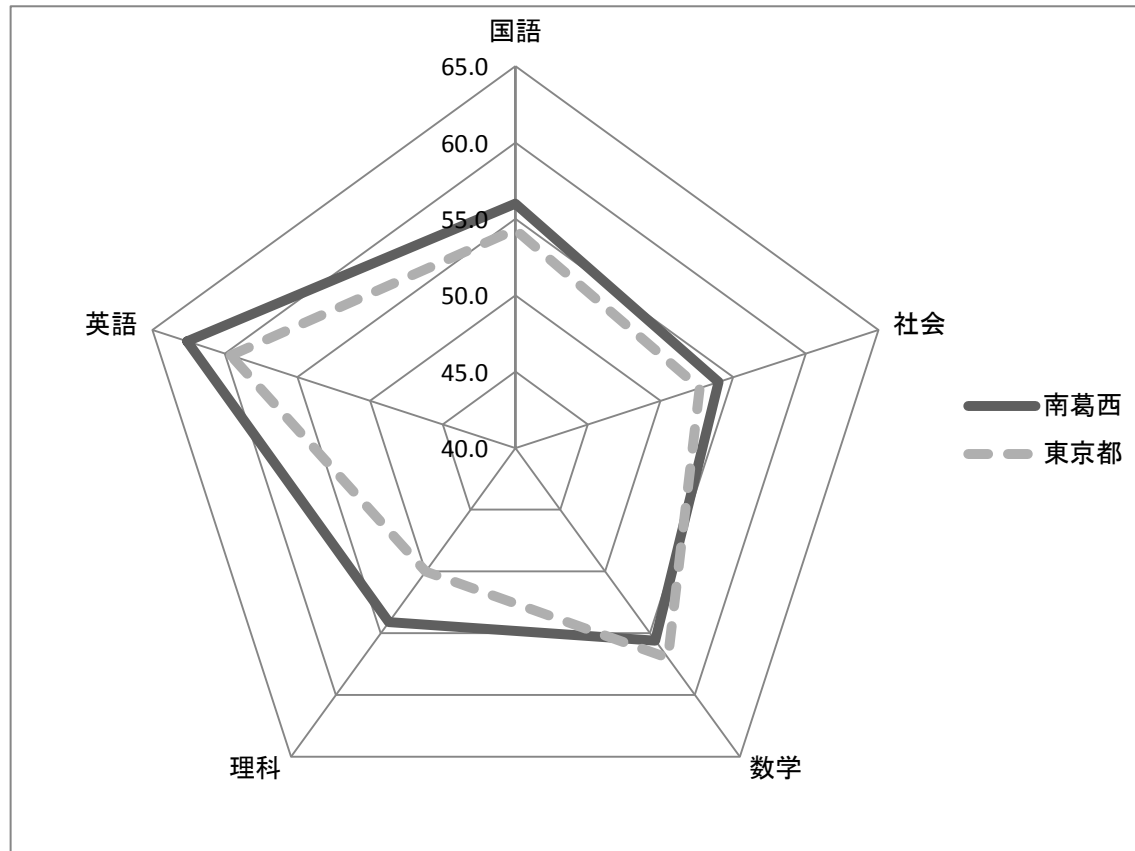


平成27年度 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 (都学力調査)

江戸川区立南葛西中学校

<現状把握>



国語	全体としては都平均をわずかに上回るものの、A問題「読む」においては-1.1ポイント、B問題「読み取る力」においては-0.3ポイントと依然としてマイナス値である。授業及び家庭学習において「読む」活動を充実させることが求められる。また、学力層ではC・Dの下位層の生徒が約半数を占めていることから、学習内容の反復、定着が課題であると考えられる。
社会	A問題では、関心・意欲・態度と知識・理解は都平均を上回るが、思考・判断・表現と技能は下回っている。B問題では、読み取る力は上回るが、取り出す力と解決する力は下回っている。今後、暗記中心の授業から、考えたり、まとめたりする授業の工夫が課題である。
数学	A問題では、数学的な知識・理解および技能に関する問題の正答率は半数を超えているが、数学的な見方考え方に関する問題の正答率が低い。いずれにしても、都の平均より2ポイントほど下回っている。B問題では、解決する力は都平均より上回っているが、取り出す力や読み取る力が都平均より下回っている。特に長い問題文の題意を読み取ったり、空間図形から必要な情報を取り出して考えることができていない。
理科	A問題では、すべての項目において東京都平均を上回っており、特に技能観点においては、約9ポイントも都平均を上回っている。教科の基礎・基本が定着しつつあることが分かる。B問題では、取り出す力と解決する力が平均を割った。様々なデータから必要な情報を取捨選択し、課題を解決する力に弱点があることが分かった。他教科に比べ、四分位のA層の割合が高く、C・D層の割合も比較的小さい。習熟度の低い生徒への指導が課題である。
英語	A問題では都平均を3.9ポイント上回っており、基本的な内容は定着している。特に関心・意欲は都平均を9ポイント上回っており、間違えを恐れずに自己表現しようとする意欲が見られた。その反面、B問題は都平均を0.1ポイント下回っており、長文を読み取る力、解決する力が弱いことが分かった。また、適切な表現を用いて英作文をする力も十分ではない。

<授業改善のポイント>

<p>【国語】</p> <p>毎授業での前時の復習時間を充実させ、反復する機会を増やす。特に音読の機会を増やすことで正しい漢字の読み方や正しい文章構成の定着を図り、下位層の底上げと読む力の向上を目指す。また、授業時間内に家庭学習状況を確認する頻度を増やし、継続的な家庭学習を習慣化させる。</p>	<p>【社会】</p> <p>・歴史の年表作り、地理の白地図作業、レポート作成など、考え、まとめる力を伸ばす。 ・単元ごとにワークに取り組み、自主学習力を伸ばす。</p>	<p>【数学】</p> <p>・初めて解くような問題を、今までの知識や技能で解決する応用力をつけるために、考えうる様々な問題を提供して、数学的な見方や考え方の力を伸ばす。 ・長文の問題を随所に取り入れて、問題文を読むことに対する抵抗感をなくさせる。 ・数学的な知識・理解・技能を伸ばすために、習熟度に見合った宿題を出すなどとして、家庭学習の習慣を身につけさせる。</p>	<p>【理科】</p> <p>観察・実験を中心とし、授業中に生徒の考えを発表したり、話し合い活動を通して学びあう、課題解決型学習を積極的に取り入れる。加えて、振り返りや繰り返し学習する活動や、理科の学習方法指導を計画的に取り入れていく。また、進路学習との連携も視野に入れ、大学との連携、日常生活との関連ある題材の提示等で、理科的な知的好奇心の喚起を促す。</p>	<p>【英語】</p> <p>・継続して、生徒の関心・意欲を高められるような授業を展開する。 ・単元ごとに基本文を使って自己表現する時間を確保し、添削する。 ・教科書以外の英文に触れる機会を増やし、長文の読み方、問題の解き方をトレーニングする。</p>
--	---	---	---	--